

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田 4-16-1-33 合原一夫 Tel06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗 1-18-20 前田茂夫 Tel072-850-5781
 HomePage 担当 〒559-0033 大阪市住之江区南港中 5-6-22-703 坪井仁志
<http://www.omc-video.com> Tel06-6613-2836

平成28年11月(2016年)No611

難波市民学習センターで毎月開催中の

「駅前映画会」に我がクラブが参加の方向へ “大阪の昭和と今を伝える”をメインテーマに

私たちが例会場として使用している「難波市民学習センター」では、毎月第4月曜日の午後「駅前映画会」を開催しています。懐かしの16ミリフィルムによる上映が主で、今までにも記録ものや文化等のテーマの作品が数多く上映されています。

このほど学習センターの方から、大阪ムービーサークルのアマチュア映像作品も上映参加してみてもどうか、という打診があり、進藤副会長が対応してまいりました。

今春は「春のセンターまつり」に参加し、「大阪をテーマにした作品」に絞って上映会を実施したところ、補助椅子を持ち込むほどの盛会で、他の会場に比べて、きわだった動員力を誇り、学習センター側も驚いておられました。来春も「2017春のセンターまつり」が3月3日(金)～12日(日)に開催され、唯今、各グループに参加を呼びかけられています。

OMCとしては、今春参加したので来春は見合わせて3月以降に単独で「駅前映画会」に名乗り出ては如何かと考えております。会場費が無料で講堂が「午後一杯使えるのも魅力です。もっとも学習センターの主旨に合致したテーマでないといけないので、旧作近年作の中より選び、メインテーマを「大阪の昭和と今を伝える」にしたかどうかを考えています。主旨に沿った作品をお持ちの方は関世話役に申し出てください。目途がつきましたら学習センターと協議に入る予定です。皆様のご協力をお願いいたします。

11月例会のお知らせ

■第2例会：11月17日(第3木曜日)13時より難波市民学習センターにて開催。皆さんから意見、助言を受けたい作品、リバイバル作品等お持ちください。通常例会のあわただしい司会進行と違い、一作ごとに時間をかけて意見交換をします。残った時間は他のクラブ発表作品を参考上映します。

通常例会：11月26日(第4土曜日)18時より、上記会場にて開催。朝夕めっきり冷え込む季節ですが、お出掛けにもよい時期、月1回の通常例会にぜひお越しください。皆さんと会話のはずむ2次会参加も楽しいですよ。

■予告

- ・12月24日(土)13～15時 幹事会開催
年度賞選定の件
- ・12月24日(土)15時10分～16時30分
来年度世話役役割分担の件
一泊撮影会企画概要報告の件

■新しい世話役さん募集

井上勝彦世話役さんが、一身上の都合で来期からから世話役を降りたいとの申し出がありました。したがって新しい世話役さんを一名募集します。受付け役または、上映担当を予定しています。今まで世話役をやっていたいなかった新人さんに期待しています。役割は持ち回り分担制で毎月担当するものではありませんので、都合が悪い月は替わって貰うことは可能です。

我がホームページの充実度向上

坪井氏、前田氏、進藤氏らのご努力で、OMCホームページが充実してきました。

過去に遡って会報の紹介がなされています。個人別に出品作を選び出すことも可能です。OMC 発表会プログラムの収集も出来上がりました。そのうち作品の取り込みも将来の方向として夢でなくなるかもしれません。関係しておられる世話役さん達に感謝です。

10月通常例会レポート

朝夕めっきり気温が下がり、しのぎ易い季節となりました。例会日の昼間は岸和田の発表会があり、本日司会担当の柴辻氏が発表会終了後例会場へ直行6時丁度でした。

今月の司会は柴辻氏、書記、西村光雄氏、上映担当、井上氏、岡本氏、坪井氏、録画担当、江村氏、河合氏、受付照明係は華岡氏、宮崎さん、掲示は紙本氏の各担当で会を進行しました。

■出席者：赤澤、有村、井上、稲田、江村、

岡本、紙本、河合、合原、柴辻、進藤、関、高瀬、西条、坪井、西村(光)、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、山城、弓取の25氏と作品14本。

■上映作品(今月の講評は西村世話役)

1. 雨の若桜鉄道 BD

前田茂夫

7分56秒

若桜鉄道は鳥取県八頭郡を走る19.2kmの短い路線で、JRの赤字路線対策で第3セクターの若桜鉄道(株)に引き継がれて、地元の足として頑張っている様です。撮影に行かれた日がたまたま雨だったので、雨の日を狙われた訳では無いとの事でした。超ローカル線の経営の苦しさが、路線の保線状態の悪さとか、車両も外観は綺麗にされていますが、運転席の横はペンキが剥けている映像とかに現れています。作者は列車の走る情景、雨にかすむ山並みや桜、運転席から撮ったアウトフォーカスの映像等をミックスされて抒情詩的な雰囲気の商品に仕上げられました。雨を思わせる静かな音楽が良くマッチして雰囲気を盛り上げています。苦しい状況の中で健気に走っている若桜線に応援したい気持ちを抱かせる良い作品でした。私には衰退していくローカル線には、雨の風景が似合ってる様に思えました。

2. 阿波踊り BD

江村一郎

7分20秒

作者は「よさこい」に代表される様に、短いカットを瞬間的につなぎ合わせて動的な効果を表現される作品が多かったと記憶しています。今回の作品はそう言うインパクトを狙った編集ではなくて観客の映像もかなり入れられて、祭り全体の雰囲気を表現され

ようとされた様に感じられました。際立っているのはカットのつなぎと構成です。一般に動くカット同士、動くカットと静止しているカットを無神経につなぐと違和感が出ます。この作品ではオーバーラップが3ヶ所で後は全部カットつなぎで、動いているカットが多いのですが違和感を感じるつなぎは全く有りませんでした。つなぎポイントにかなり時間を掛けられたのではないのでしょうか。そう言う丁寧な編集と音の処理、更には緩急を付けられた構成で「よさこい」とは違った意味で、完成度の高い作品となっていました。

3. 田峯（だみね）の田楽 BD

河合源一郎 11分44秒

愛知県の高勝禅寺(田峯観音と呼ばれる)のご開帳の時に行われた田楽を取材して、作品にされました。田楽は元は伝統芸能でそれが社寺と関連して、神事になったと言われています。時を経るにつれて田楽は派手なものになって行きますが、田峯田楽は元の姿に近い田楽だそうです。従って素材としては地味で判りにくい部分もあります。記録として編集されていますが、長時間に亘っての撮影で多彩なカットを撮られ、適切に編集されています。田楽のそれぞれの所作についても、ナレーションで説明されて分かりやすくなっていますが、田楽そのものと歴史の説明を席上で説明された様にも少し詳しくされた方が、より判りやすくなるのではないのでしょうか。派手な芸能化が少ない原型に近い田楽として貴重な記録と言えるでしょう。

4. 名月姫伝説 BD

紙本勝 10分25秒

尾崎市を流れる庄下川の辺にある尾

浜八幡宮には、伝説の人物「名月姫」の墓があり中秋の名月の日に名月祭が行われ、この日に名月姫を護る会が名月姫の供養を行います。作者はその行事を撮影され、その映像を導入部として名月姫伝説が展開されます。平安時代の尾浜の領主の家に美しい名月姫が誕生し能勢の豪族に嫁入りしました。その後日に平清盛に見染められ側女に出される事になり、福原の都に赴く途中の峠で自害すると言う物語です。作者は名月姫の足跡を辿って撮影され、その実写と資料映像を巧妙に合成されて伝説を視覚化されました。元々が悲劇ですが、見ていて民話的なほのぼのとした雰囲気仕上げられているのは、良かったと思いました。

5. コルド・シュル・シェル BD

華岡汪 9分43秒

コルド・シュル・シェルは、フランス南部の中部ピレネー地方で最も古い城塞都市で海拔280mの丘に建設されたので天空の村と呼ばれているそうです。村の名前がコルド、シュル・シェルは空の上と言う意味と伺いました。中世の栄えた時代には商人や貴族が競って豪華な館を建て、その館もこの作品で見ることが出来ました。ツアーで行かれたとの事ですので三脚は使う時間がなくて手持ちでお撮りになったのですが、落ち着いた撮影で、限られた時間で沢山のカットを撮られた努力には敬服です。作品には最初と最後にナレーションが入り、中間部は場所の字幕を入れられています。ナレーションは詳しくて判りやすいのですが、中間部は同じ場所の映像はなるべく纏めて、

簡単なナレーションで説明を入れられれば、細部がより判るようになって、作品がより映えるのではないのでしょうか。

6. ひがん花の里 BD

進藤信夫 9分50秒

ひがん花の里は全国各地にあります。今回は亀岡市の里を訪ねられました。ここのひがん花は自生ではなくて、田の堤にモグラが穴を開けるのを防ぐために植えられたそうです。ひがん花の別称がいくつか紹介されていますが、曼珠沙華が一番品が良い様に思えました。作品はまずひがん花の美しい画像から、植えられた由来の説明インタビュー、里にある丹波でも屈指の古刹穴太寺と続きます。穴太寺は民話「安寿と厨子王丸」の厨子王丸肌守御本尊をお祀りし、厨子王丸が都に上る際に厨子王丸をかくまったと伝えられています。そのエピソードを交えながら里の風景を紹介し、最後はひがん花で締めくくられて居ます。良い構成と思いました。ただ、重複的なカットを少し省かれると、更に締まった作品になるのではと感じました。

7. 大阪夏の陣跡を巡る BD

有村博 7分45秒

NHKの大河ドラマ「真田丸」の人気に乗って、関係社寺ではスタンプラリー等いろいろな催しが行われている様です。作者は真田六文銭にあやかって、天王寺近辺の六ヶ所の大坂夏の陣のゆかりの地を巡って撮影されました。真田十勇士の一人、穴山小助が戦死した庚申堂に始まり、堀越神社、大坂夏の陣図(陶板画)があり戦況を再現し

た動画を上映している一心寺、戦跡としては一番有名な茶臼山、真田幸村終焉の地安居神社、激戦が行われた四天王寺と続きます。ベテランらしい落ち着いた映像と、再現動画を挟み込んで変化を付けられて、明快な作品に仕上げられています。地図で見るとかなり大阪城から離れていますが、豊臣方は城の近くでの戦闘を避けたのかも知れませんね、徳川側の大筒の射程距離も考えたのかとか、想像が広がる作品でした。

8. 三室戸寺 DVD

弓取克弘 8分00秒

作品表では三室戸寺のみで、三室戸寺を主体に描かれているのかと思いましたが、作品中のテロップでは明星山・三室戸寺(祈り、願い、そしてやすらぎ)とあり、この括弧の中が主題でそれを三室戸寺を借りて表現されたイメージ的な作品に思えました。撮影は構図的に気を使われ、アングルも適切に変えられて、同じアングルの絵が何枚も続かないように心配りをして編集されています。映像としては祈りや寺内を散策する人々とか、素材の選別と配置で全体として安らかな雰囲気良く表現されていました。それ故に気になったのは1分20秒に出て来る開きすぎた蓮の花のカットが、4分20秒でまた同じカットが出て来ます。特に美しい絵でもないのに何かの意図が無ければ1カットにされたら如何でしょう。席上音楽の話が出ましたが、この音楽は祈りとか安らぎにはリズムが強すぎて、編集の良さを損なっている感じがして、とても惜しい感じがしました。

9. ふるさと晩夏（流れ施餓鬼） BD

岡本至弘 12分15秒

和歌山県田辺市の下川上には、お盆に麦わらで作った船に新仏を乗せて流す「流れ施餓鬼」(県指定 無形文化財)があり、その行事の一部始終を撮影しました。麦わら船と言っても長さ9m、幅1.2mの大きな船で、流れ施餓鬼保存会・愛郷会の方が伝統の行事を保存する為に骨を折っておられます。竹の伐採から船の骨組みの製作、麦わらの取り付け、更には船頭役の麦わら人形の製作に至る過程や、新仏を供養して位牌を船に乗せて火を放って流すシーンまで丹念に撮影編集をされています。よく調べられたナレーションが付けられていますので、全貌がよく判りました。最後の火に包まれた精霊舟のアップは迫力がありました。欲を言えば前半の雨中のインタビューの音声が、雨の音に消されて聞き取りが難しい部分がありますので、ここをテロップで補われた方が宜しいのではないのでしょうか。

10. 天山北路 BD

山本正夢 13分30秒

いつもツアー等では簡単に行けない辺境や、珍しい風物を撮影されて新鮮な驚きと感動を与える作品を制作されている作者ですが、今回はロマンを感じるシルクロードの天山北路を訪れました。まずカザフスタン最大の都市アルマトウイを出発点に、キルギスの首都ビシュケク→観光地のイシクル湖→国境の町オシュ→中国 と車、列車、飛行機を乗り継いで、移動されました。都市の賑わい、湖と温泉、古代の遺跡等、精力的に撮影されたカットが現地の音楽に乗せて展開されます。アルマトウイ近郊のスキー場にある世界のスキー場の標識には、「ニセコ・ジャパン 5,045km」の文字があり、遥々来たのだなという感じがしました。雪を

戴いた天山山脈の山々の新鮮な眺めや、あまりお目に掛かれない風景が満載で興味をそそられました。この近辺の国々は覇権大国の中国とロシアに挟まれて外交的にも大変なのでしょうね。中国に併合された新疆ウイグル自治区やチベット自治区の様にならない事を願っています。期待に違わない見応えのある作品でした。

11. 里山に遊ぶ BD

宮崎紀代子 9分00秒

泉北ニュータウンの近郊の里山で撮影されたそうです。オープニングは童心に帰って野草の「すかんぽ」を味わわれる部分から始まります。私の育った地方では「すかんぽ」はありませんでしたが、いろんな野草で遊んだ記憶がよみがえり、久しぶりに幼時を思い出しました。この里山には不登校児のための畑(不耕起栽培 耕さないで作物を作る方法で栽培がされている)があったり、日本ミツバチの飼育も行われ、里山の復興に努力しておられる方もいらっしゃる様です。後半作者は筍掘りに挑戦されたいましたが、仲々力が必要で難しそうですね。随所に話し声をバックに使用されて臨場感と楽しい雰囲気伝わって来ます。最近採算的に手入れが出来ない荒れた山が増えていますが、自然の再生が大切だと言う趣旨が良く伝わって来る作品でした。

12. 斎宮の旅立ち BD

森口吉正 11分40秒

毎年10月の第2日曜日に行われる野宮神社の斎宮行列を詳細に撮影され、きっちりとした記録作品になっていました。カメラワークも場所が自由に移動できないという条

件はありますが、その制約の中で映像のサイズ、画角の変更等に神経を使って撮られている事が、よく判ります。ナレーションも斎宮の由来から源氏物語の記述に及び、良く調べられていました。作品を作る際にカットが足りなくて困ることが良くあります、この作品の場合はカットが豊富にある様ですので、斎宮行列の旗が進んでいくカットで観客が行列の横をすり抜けて行く部分(この観客は少し邪魔です)、少女が横笛を吹きながら進んでいくカット(途中でフォーカスがふらついている部分があります)は、除かれても全体的に問題は無いのでは無いでしょうか。折角きっちり撮られて上手に編集されているだけに目立つように思われました。

13. OMC 慰労会 BD

稲田 拓 7分50秒

10月2日に行われた OMC フェスティバルの、打ち上げ慰労会の様子を撮影されました。三脚とかを使われた本格的な撮影では有りませんし、話している人が変わると急いでパンをしなければなりませんので、映像的にぶれたり安定性が乏しいのは止むを得ない事でしょう。私はこの会に出席出来ませんでしたので、この作品で慰労会の雰囲気や内容がよく判って見せて戴いてよかったですと思いました。こう言う自然体の記録は関係者にとっては貴重ですね。

14. 北山杉とともに 伝統技法本仕込み BD 高瀬辰雄 7分00秒

北山杉は床柱としてよく使われ有名です。この作品は北山杉の伐採から仕上げまでの工程を、テロップと山の職人集団の親方を務めて居られる尾島さんのインタビューの音声で説明をされています。伐採等の工程はかなり力仕事で職人の人材確保と、教育が大変な事がうかがえます。映像は落ち着

きがありかなり多くのカットが撮られ、良くわかる編集がされています。細かい事で恐縮ですがカットのつなぎで2点気になる所がありました。オープニング直後の杉の木を洗うカットの後に菩提の滝がつながっていて一瞬何でここで滝が出てくるのかと思いました、滝のカットの終わりの方でこの滝の砂で杉を磨く・・と言うテロップが出て来て理由が判りましたが、この説明は滝のカットの前でされた方が2つのカットの関連性が明瞭になって良いのではないのでしょうか。それと尾島さんのインタビューのカットの後にアップの地下足袋をつないだ部分が2箇所ありました、このカットつなぎは印象が強くて良いのですが、印象の強いつなぎは2回使うと印象が強いだけに「またやっている」と思われがちなのでこれは1箇所にしたらと感じました。全体としては伝統の継承とそれに努力しておられる皆さんが良く描かれている好作品でした。

●機材修理会社情報

OMCニュースのアーカイブを整理・編集していると、平成3年6月(1991)号にカメラ、映写機等の修理を引受けてくれる会社が紹介されていました。社名は日研ビコーとありました。そこで現在はどうなっているのかと Google で調べたら社名は日研テクノと変更されていますが、修理の受付を行っているとあります。

社名:日研テクノ株式会社

所在:大阪市西区南堀江2-10-2

TEL: 06-6538-0506 <http://www.nikken-techno.co.jp/profile.html>

機材の修理でお困りの方、一度問い合わせてみてはいかがでしょうか。